

日蓮聖人遺文辞典正誤表(三)

昭和六十三年十二月九日現在

| 頁 | 段 | 行 | 項目名 | 誤 | 正 | 備考 |
|-----|---|----|--------------|--|--|-------|
| 七〇 | 1 | 19 | いのち【命・気命】 | いのち【命・気命】 | いのち【命・寿・気命】 | 見出し訂正 |
| 七九 | 1 | 17 | いんじゅだい【院主代】 | | 『滝泉寺申状』(二六八―頁A)にみえる。 | 末尾挿入 |
| 一六六 | 3 | 4 | かいもくしょう【開目抄】 | しずめたり | しずめたり | 訂正 |
| 四六五 | 4 | 12 | しっぽう【七宝】 | 宝玉 | 宝玉 | 訂正 |
| 五五九 | 4 | 18 | しょうぼどう【勝母道】 | 勝母とは里の名。勝母道は勝母の里を通る道。『堯舜禹王鈔』に「孔子の弟子に曾参(じゆん)と云ふ者あり。孔子の使ひに西国へ行くに三の道あり。一は山道、二は海道、三は勝母道と云ふ。三が中の勝母と云ふ道は直道(ぢくぢ)也」(一九五六頁)とみえる。曾参は孔子の使いで西国へ行くことになつたが、その道に虎や狼、山賊の出る山道、海賊の出る海道、勝母の里を通る道の三道があ | 勝母とは中国の地名。勝母道は、そこを通る道のこと。孔子の弟子の曾参(じゆん)は、勝母とは「母に勝つ」という名称であるから不孝につながるとして、この道を通らなかつたという。『堯舜禹王鈔』に「孔子の弟子に曾参と云ふ者あり。孔子の使ひに西国へ行くに三の道あり。一は山道、二は海道、三は勝母道と云ふ。(中略)然に曾参がつれ十人あり。九人が云く、直道(ぢくぢ)なれば勝母を行かんとて是にかゝる。曾参が云く、母にかつ | 訂正 |

削除↓語句・文章の一部を削除すること。

| | | | | | |
|------|---|----|---------------------------------|--|--|
| 一一三四 | 2 | 32 | もんしょ | 『曾谷殿御返事』に……で使われている。 | 削除 |
| 九四三 | 1 | 26 | | | 新加 |
| 九三二 | 1 | 2 | ひえいざん【比叡山】 | ひえいざん【ひへい山・比叡山】 | 見出し訂正 |
| 七〇〇 | 4 | 6 | だいはつねはんぎょ う【大般涅槃經】 | 須陀洹・斯陀含 | 訂正 |
| 六八七 | 3 | 23 | だいぜんたいあくご しょ【大善大惡御書 ・一六七】 | ・撰津尼崎長遠寺等 | 削除 |
| 六八七 | 3 | 22 | だいぜんたいあくご しょ【大善大惡御書 ・一六七】 | 一紙五行 | 訂正 |
| | | | | つた。勝母道は直接目的地に平穩無事に行ける道であったが、勝母の里が「母に勝つ」という不孝に順ずる名称であるところから、孝養の厚かった曾參をあえてこの道をさけ山道へ入って山賊に殺されたという故事がある。 | と云ふ道なれば行かじとて一人山道にかゝりぬ。然に九人は勝母にかゝりて夜打に打たれて死しぬ」(一九五六頁)とあり、孝養の厚かった曾參が難をのがれたことが記される。 |

抹消↓見出し・解説の全体を削除すること。

挿入↓語句・文章を挿入すること。

新加↓新たに項目・解説を追加する（見出し変更による移動も含む）。

訂正↓文字・語句・文章などの誤りを正す。

日蓮聖人遺文辞典索引正誤表（三）

昭和63年12月9日現在

| 頁 | 段 | 行 | 誤 | 正 | 備考 |
|-----|---|----|------------|------------------|-------|
| 9 | 左 | 19 | いのち（命・気命） | いのち（命・寿・気命） | 訂正 |
| 101 | 右 | 30 | ひえいざん(比叡山) | ひえいざん（ひへい山・比叡山） | 訂正 |
| 103 | 左 | 40 | | ひへいざん(ひへい山)……943 | 新加（G） |

抹 消 → 見出し語・ページの全てを削除する。

新 加 → 新たに見出し語・ページを追加する（見出し語変更による移動も含む）。

訂 正 → 見出し語・ページの誤りを正す。

（G） → ページがゴシック文字であることを示す。